

普及活動情勢報告（令和3年7月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

栗新技術導入協議 ～北幡地域の栗倍増を実現するために～



現地検討の様子

7月13日、普及所は幡多農業振興センター、JA高知県北幡営農センターの果樹担当者に呼びかけ、北幡地域の栗のJA出荷量50tを実現するため、新たな技術を提案し検討しました。

また、地域で更に高齢化が進むと収穫作業がますます困難になることから平坦ほ場への栗の植栽を推進するために、水田転換ほ場で栗の健全育成の方法を実証することになりました。

四万十流域の重要なブランドである栗の増産実現のため、栗の実証ほを通じて新たな技術の開発と導入を目指していきます。

露地有望品目の探索 ～スイートコーンの実証～



穂長調査の様子

7月21日、普及所は有望な露地品目を探索するため、スイートコーン実証ほの収量調査を行いました。

四万十町内には集落営農組織が80組織ありますが、そのほとんどが水稲の機械の共同利用にとどまっています。これらの組織が安定して農地を守っていくためには、高収益の露地品目の導入が必要です。

そこで、今年度はスイートコーンの栽培試験で、高南地域に適した品種と播種時期を検討しています。

普及所では今後も、高収益露地作物の普及により、集落営農組織による集落の農地を守る取組を支援していきます。

シシトウ現地検討会の実施 ～L3葵シシトウ実証ほ巡回～



L3葵シシトウ現地視察の様子

7月13日から16日にかけて、JA高知県十和支所シシトウ部会の現地検討会を15地区で実施しました。4日間でのべ32人が参加し、普及所からは殺虫剤・殺菌剤のローテーション防除について説明を行いました。現地では新品種L3葵シシトウの栽培状況を確認し、参加者からは「果形は安定しているか」「収量は既存の品種に比べて取れているか」など、活発な意見交換がされていました。

普及所はL3葵シシトウ実証ほの調査を継続し今後もシシトウの収量向上に向けた支援を行っていきます。

米ナス現地検討会 ～病害虫早期防除を目指して～



米ナス栽培講習会の様子

7月20日に、JA高知県十和支所米ナス部会を対象に現地検討会を実施しました。部会員8名が参加し、普及所からは苦土欠乏症と高温期のかん水管理について説明しました。
現地巡回の際「ヘタ傷がどの程度入れば出荷不可になるか」「青枯病にはどのような対策をとるべきか」など、生産者同士で活発な意見交換が行われました。
普及所では巡回指導を交え、今後も米ナスの増収に向けた支援を行っていきます。

移住の現状を知り普及活動に活かす ～四万十町移住担当職員を招き職場研修を開催～



研修会の様子

6月2日、普及所で管内の移住の現状と取組を知るために職員を対象に研修会を開催し、10名が参加しました。町役場にぎわい創出課の移住担当職員を講師に招き、移住推進の取組について学びました。町役場の農業担当職員も同席し意見交換することができました。講師からは、「お試し滞在住宅を活用し、まず地域を知ってもらうことが移住定住につながる」など、移住のポイントが説明されました。
普及所職員からは、「移住して来られた方は、こちらで何を生業にしているのか」「農業の現場では、人手を欲しがっている」などの質問や情報を伝えました。
農業担当職員からは「面談ではどんな仕事があるのかと聞かれたりする」「農業の雇用情報が限られている」など、情報共有することができました。
普及所は今回の研修を活かして、町役場と連携を取り就農者確保に取り組みます。

高南地域営農協議会総会をWeb会議で開催 ～令和3年度総会～



Web会議の様子

6月22日、JA高知県四万十農協会館で、令和3年度高南地域営農協議会総会が開催され、JA高知県、四万十町、中土佐町、普及所、ほか6関係機関から、6か所のWeb会場含め約50名が参加しました。
総会では、令和2年度事業報告及び収支決算報告、令和3年度事業計画案及び収支予算案、役員を選任について協議し全て承認されました。
この協議会は、企画・担い手、作物振興、畜産振興、販売・加工の4つの専門部会で構成されており、今年度はこれまで以上に部会間の連携を図り、有望品目の検討についての課題解決に取り組むことになりました。
普及所は、同協議会の事務局を担い、有望品目の検討等の課題解決を図ります。